

# 糸満ハーレー行事委員会

交流  
部門

由緒あるハーレー行事を基底とし市民の融和と親睦を図るふるさとづくり  
(平成26年度認定)



糸満ハーレーは毎年旧暦5月4日に行われる伝統行事で、古い時代から歴史を重ねてきた。この行事は、ウミンチュ(漁師)の生活と信仰に深い繋がりを持っており、糸満市指定民俗文化財(無形)にも指定されている。

祭りは、9の自治会を西村、中村、新島の三つに分け、操船技術と腕自慢、村の誇りを掛けて行われる。

ウグワン(拝み)に始まり、ウグワン(拝み)で終わる祭りとしても有名で、主祭するのは南山のノロ(祝女(ヌル))と共に糸満のノロ(祝女(ヌル))の神職の人たちによって、最初にサンティンモー(山巔毛)での祈願がなされ、祈願が終われば、御願ハーレーが出発し、糸満ハーレーの幕が開く。御願ハーレーの勝敗が着くと、着順に白銀堂に詣でて、一年間の大漁祈願と航海安全、家内繁昌を祈願する。

その後、伝統継承と後継者育成のため、青年団ハーレー、中学生ハーレー、クヌカセー(転覆競漕)と進み、途中、一般参加のアヒラトッエー(アヒル取り競争)、職域ハーレーを織り交ぜながら、最後に行われる各村の選りすぐりのハーレーシンカ(漕ぎ手)により、行事ハイライトの長距離のアガイスープで行事を締めくくる。

伝統文化である糸満ハーレーは、祭り本来の目的である大漁祈願と航海安全、家内繁昌の祈願を行いつつ、地域の祭りとしてだけでなく、ハーレー舟の構造と櫂捌きの難しさを体験出来るよう、職域ハーレーなど一般の方も参加できるように運営されていることから、「沖縄、ふるさと百選」交流部門において認定を受けた。



山巔毛(サンティンモー)での  
御願(ウグワン)



三村(西村・中村・新島)による  
ウグワンハーレー



ウグワンハーレーの  
勝利報告と祈願



他では見ることのできない転覆競漕  
(クヌカセー)



一般参加ができるアヒル取り競争  
(アヒラトッエー)



ヌン殿内でのアガイスープ  
総合優勝報告の儀式